

京都ボランティアバンク補助金 補助金活用例

京都ボランティアバンク補助金の活用例です。活用いただく際の参考にしてください。

1. スタートアップ支援補助

(1)暮らしの困り事に関するボランティア

- ①町内に暮らす一人暮らし高齢者や障害者の方を対象に、暮らしの中での困りごとに応える活動

(2)地域の中での居場所づくりのボランティア

- ①子育てに関する悩みを持つ親の支援を目的に、地域における子育て交流サロンの開催。発達障害等について子どもへの親の関わり方の学習セミナー等の開催。
- ②町内で誰でもお茶を飲みながら集える場が少ないため、町の老人福祉センター内を利用し、世代間交流の場となる喫茶の取り組み。
- ③ふれあい農園の運営等を通して、地域住民のコミュニティ醸成を目指す。

(3)趣味や特技を活かしたボランティア活動

- ①出張囲碁を通して、外出が困難な方を対象に個人宅等へ訪問し見守りを行う。
- ②おもちゃを無償もしくは実費で修理する活動を通して子どもたちに物を大切にすることを育てるとともに、世代間交流の場を生み出す。

(4)防災を通じた地域コミュニティづくり活動

- ①平時は自治会等の地域のコミュニティ団体に防災と地域のつながりづくりの関係を伝える活動をし、発災時には災害ボランティア活動を行う。

(5)子ども・青少年が中心となって行うボランティア活動

- ①学校で学んだ手話をきっかけに子供たちが聴覚障害者と手話で交流する取り組み。

2. 地域生活課題支え合い補助金

(1)対象のかけ合わせ

- ①支援学校卒業後の障害のある社会人(当事者)を対象に学習支援や余暇活動支援を行っている団体が、地域住民を対象に発災時の障害者への情報伝達や日頃からの関わりについての障害理解の活動を新たに実施。
- ②地区内の遊休地を活用し、地域経済の活性化や地域振興につなげる活動に取り組むボランティア団体が、障害者や外国人も参加できるようパネルの作成等を実施。

(2)既存の活動とのかけ合わせ

- ①高校のボランティア部が、町内に暮らす一人暮らし高齢者や障害者の方を対象に、暮らしの中での困りごとに応える活動団体のサポートを受け困りごとに答える活動を新たに実施。

3. 社協ボランティア振興チャレンジ補助金

(3)こどもの貧困に関する実態調査と居場所づくり

- ①町内の小中学校にこどもの生活実態を聞き取り調査。その結果を踏まえ、こどもの居場所づくりや学習支援のためのボランティアを募集し地域の大人がこどもの心の成長に寄り添い相談できる関係づくりを目指す。